

掛合小学校 校報 ましみず

<第9号>

平成23年1月発行

新年、明けましておめでとうございます！！

2011年がスタートしました。明けまして、おめでとうございます。皆様お揃いで、よいお年を迎えられたことと思います。

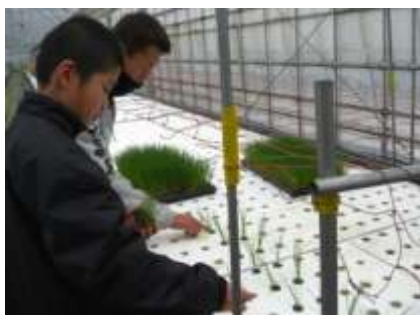
さて、年のはじめは、本校の子どもたちも、「新年の決意」を決めています。3学期の授業日は50日あまりで、大変短い学期ですが、それぞれが自分の決めた決意（目標）に向かって、精一杯頑張りたいと思っています。



職場体験（6年生）……12月に、6年生が職場体験を行いました。これは、雲南市キャリア教育推進プログラムの「夢発見プログラム」の一環として取り組んだものです。施設・職場見学等を通し、働くことの大切さや苦労がわかり、学んだり体験したりしたこと、生活や職業との関連を考えることが主なねらいです。

当日は、町内の9つの職場に分かれて、それぞれが自分のめあてに向かって精一杯頑張りました。自分の考えていたことと違っていたり、初めてしたことだったり、うまくいかなかったこともありました。子どもたちは、体験を通し、職業に対する考えを深めることができたように思います。一人一人、とても貴重な体験となりました。

各事業所等の皆様には、大変お世話になり、ありがとうございました。今後ともよろしく願っています。



掛合小学校 校訓の制定

新掛合小学校が開校して3年が過ぎようとしています。本校には「校訓」がありませんでした。そこでこの度、保護者の方からのアンケートを踏まえ、教職員で検討を重ねながら、ようやく校訓を制定することができました。（下記のとおりです。）

がんばるかけやの子 かしこい子 げんきな子 やさしい子

これは、毎年、年度初めに作成している学校経営方針の中から取り上げた言葉です。（「ましみず1号」や「学校要覧」にも掲載していますので、ご確認ください。）

「かしこい」という言葉には、勉強がよくわかるようになってほしいということはもちろんですが、人として大切な行動が、自分でよく考え、きちんと判断して実行できるという「賢さ」の意味も含んでいます。「げんき」は、一番大切なことで、心も体も元気で、楽しい毎日を送ってほしいという意味を込めています。この頃は、いろいろなことで思い悩む子どもが増えてきています。ぜひ「心の元気」も大切にしたいと思っています。「やさしい」は、文字通り、やさしさを求めています。子どもたちの学校生活には、時として、心ない言動が見られることもあります。お互いのよさを認め合いながら、やさしさいっぱいのかしこい掛合小学校を作っていきたいと思っています。そして、子どもたちが大きくなっても、いつまでも忘れないような校訓であってほしいと思います。さて、校訓は、体育館のステージ左側（右側は校歌）に取り付ける予定です。筆耕は、円通寺のご住職・釈泰澄様をお願いをしました。現在は、表装作業に取り掛かっています。2月中旬には、皆様方にご披露できると思います。いろいろとご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。

書き初め大会……新年恒例の書き初め大会を行いました。3年生以上のそれぞれの学年では、講師の釈泰澄先生、大島寿子先生に指導していただき、毛筆による書き初めを行いました。

この活動を通して、日本の文化と伝統に対する理解と愛情を育てることができたように思います。両先生には、丁寧に、また熱心にご指導いただき、大変ありがとうございました。



新学習指導要領での教育課程が始まる！！……いよいよ4月から新学習指導要領による教育活動がスタートします。この新学習指導要領では、「生きる力」をキーワードとしています。知識や技能の習得はもちろん大切ですが、思考力・判断力・表現力などの育成を重視します。

それに伴い、教科書は25%程度、ページ数が多くなります。また、1・2年生は、授業時間数が、1時間ずつ多くなります。よいスタートができるよう準備を進めていきます。

アルミ缶回収……12月に、PTA環境整備部の方々を中心に、アルミ缶回収を行っていただきました。地域の皆様のおかげで、収益金が、27,090円ほどありました。収益金は、子どもたちのため・学校のために大切にに使わせていただきたいと思います。PTA役員の皆様、地域の皆様、ご協力いただきまして、大変ありがとうございました。

ベルギー・オランダで生活して学んだこと……<その3・環境が人を作る！！>

ベルギーには、3つの公用語があります。ベルギー人の人口比での内訳は、オランダ語話者・約50%、フランス語話者・約42%、ドイツ語話者・約8%です。政治家になる人は、最低でもオランダ語とフランス語は、話せないといけないそうです。その他、公用語ではないけれど、英語も十分通じるお国柄です。高齢の方や地方に住む方は、どちらかしか話せない人もいますが、都市部では、多くの人が多数の言語を操ることができます。

私は、1ヵ月半に1回程度の割合で、床屋（美容院のようなところですよ。）に行っていました。私は英語でしか注文ができませんが、店員のお姉さんは、私には英語で話してくれます。床屋の中では、いろいろな言語が飛び交っていて、私はいつもそれを楽しんでいました。（もちろん意味は分かりませんが。）つまり、フランス語のお客さんにはフランス語で対応、オランダ語のお客さんにはオランダ語で、というようにお客さんの話す言語に合わせて、言葉を使い分けることができる人たちなのです。そのお姉さんに、「英語はどうやって覚えたの？」と聞くと、「学校で習ったわけではないわ。テレビで覚えたのよ！」とっていました。

なるほど、ベルギーではテレビのチャンネルが大変多く、いろいろな言語で放送されています。また、街中にも、英語や他の言語で表示された看板等があふれています。このような環境で育てば、言語への興味・関心がわき、言語感覚が自然と身についていくのだとつくづく感じました。

日本では今、外国語教育の大切さが叫ばれていますが、日本語があふれた環境では、よっぽど努力をしないと身につかないのではないかと思います。（日本語教育はもちろん大切です。）外国語に関する、いくらよい授業を子どもたちに提供しても、それだけでは十分ではありません。本気で、外国語を身につけさせようとするのなら、環境を変え、整えていく必要があります。

残念なことに、今私は、急速に英語を忘れていっています。少し覚えたフランス語も、一気に忘れていきます。自分の周りに話す人がいなくなったり、活字がなくなったりしたからです。

「環境が人を作る・育てる」ということを、身をもって体験しました。（山根 毅）

